



徳成寺 寺もかわら版 第176号 2021年8月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

コロナ禍の大混乱の中、東京オリンピックが開幕しました。

各競技をドキドキワクワクしながら、テレビで見守る一方で

いったいどんなことになるのか見通しがきかず、不安もあります。

私たち日本人が、学校で習って来たことと言えば、正しい答えを出して

マルをもらうということでした。社会に出ても、どこか学校と同じような

正しい答えを出してマルをもらう、そんな習性が身について過ごして来た気が

しますが、コロナ禍によってマルがもらえるような正しい答えがよく分からなくなった

ということなのでしょう。この答えのない状況を生き抜く力こそが現代に求め

られているのです。安易に正解を求めることなく、不安の中で問い続ける力

です。答えを学ぶのではなく、問いを学ぶ本当の学問が今こそ大事なのです。

問いを学ぶ姿勢こそ、仏教が勧める人間の基本姿勢です。

発行責任者

住職

大山 健児

坊主

大山 ひとみ



大山超世の耳を澄ませば

お世話になっています、副住職です。

コロナ禍が依然として猛威を振るう中、オリンピック開会式の様子をインターネットで見ました。私達夫婦は時間が取れる時は一緒に料理やテレビゲームをするのですが、有名なゲームの音楽に合わせて入場する姿を見てゲーム好きでよかったと感じました。インドア派なので、お家時間はあまり苦痛に感じておりませんが、妻が折角高松に来たのに、遊びに行けないから友達が出来ないんじゃないか、と気にかけて下さるご門徒の声を耳にします。コロナが落ち着いたら、東京から来たばかりの妻に、高松の僕の友人や好きな場所を少しずつ紹介したいと感じました。紙面をご覧の皆様も是非おすすめのスポットを教えてください。写真は自宅の玄関です。頂いた贈り物の一部を飾っております。日本代表が次々と快挙を成し遂げ、我が家の玄関のような華やかなニュースが増えました。皆様にも彩り溢れる毎日が訪れるように心から願っています。

